

2023年3月20日（月曜）

全労金2023春季生活闘争ニュース・第21号

～勝ち取ろう賃金改善！“みんなの春季生活闘争”で生活不安を払拭しよう！～

「闘争委員長会議」を開催！！最終交渉期間（3月20～23日）に向け、
全単組の闘争委員長が交渉状況・戦術を確認しました！！

◎全国の交渉状況を踏まえ、「戦術（当面の取り組み【その3】）」を確認しました！

全単組の闘争委員長が、統一回答期限日（3月23日）に向けて、全国の交渉状況を共有し、最終交渉期間（3月20～23日）における戦術（当面の取り組み【その3】）を確認しました。すでに満額回答を勝ち取り、基本合意（妥結団交）を終えた、鈴木闘争委員長（静岡労組）と白石闘争委員長（四国労組）から、満額回答に至った交渉経過等の報告を受け、全体で共有しました。また、第三次交渉期間までの各金庫・事業体側の動向を踏まえて意見交換を実施し、最終交渉期間における闘いの進め方について認識を揃えました。

単組闘争委員会は、最終交渉期間に突入します！満額回答に向けて、連日粘り強く交渉を積み重ねています。最終局面になりますので、業務も年度末を迎え、繁忙時期になりますが、職場集会や拡大闘争委員会等、共闘体制を一層強固なものにして、全国の仲間とともに、一丸となって、最後の最後まで闘い抜きましょう！！



◎連合は、3月17日、第1回回答集計結果を公表しました！

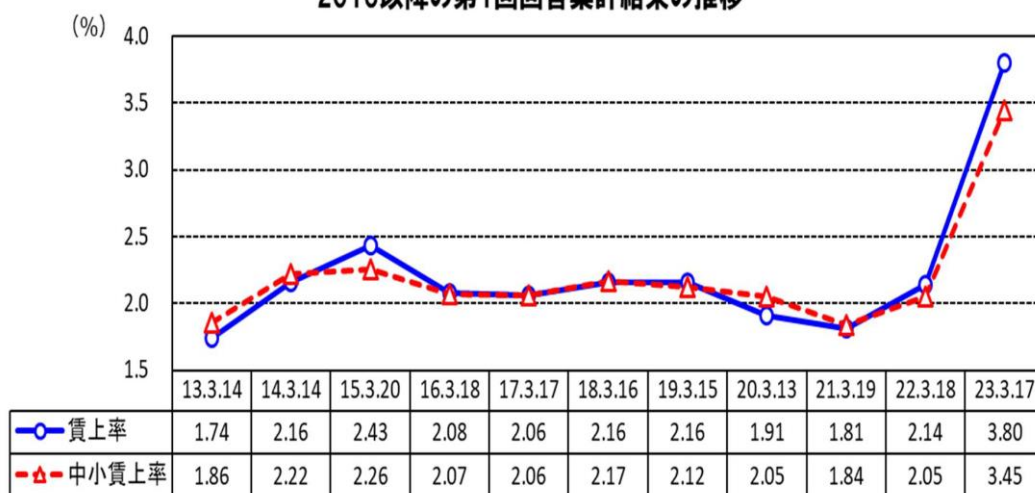
連合は、3月14～16日を大手産別加盟の労働組合における回答結果が出揃う「交渉のヤマ場」に設定し、17日にはその回答集計結果について記者会見を開き、公開しました。

冒頭、芳野友子会長からは、第1回集計結果、並びに、集計結果に対する所感が述べられ、その後は、各部門共闘連絡会議の代表（会長代行、副会長）から、それぞれの部門の状況について説明がありました。全労金が所属する「流通・サービス・金融共闘連絡会議」では、松浦昭彦会長代行（U Aゼンセン会長）より、「全労金においても2単組が回答期限前に満額回答が示された」ことが報告されました。

第1回回答集計結果の特徴としては、平均賃金方式で回答を引き出した805組合の加重平均は11,844円・3.80%（昨年同時期比 5,263円増・1.66ポイント増）となり、比較可能な2013春季生活闘争以降では、額・率とも最も高い結果となりました。また、賃上げ分が明確にわかる612組合の賃上げ分は6,907円・2.33%（同 5,265円増・1.83ポイント増）で、賃上げ分が明確にわかる組合の集計を開始した2015春季生活闘争以降で最も高くなっています。また、有期・短時間・契約等労働者の賃上げ額は、加重平均で、時給61.73円（同 35.48円増）・月給10,598円（同 5,918円増）と、昨年同時期を大幅に上回りました。引き上げ率（概算）は時給5.91%・月給4.58%で、いずれも一般組合員（平均賃金方式）を上回る結果となっています。

今回の集計結果からは、多くの労働組合が賃上げを実現している実態が明らかになりました。全労金もこの流れに乗り、回答期限日に向けて、すべての要求に対し納得のいく回答を得るまで、粘り強く闘い抜きましょう！

2013以降の第1回回答集計結果の推移



※各年データは平均賃金方式（加重平均）による定昇相当込み賃上げ率

以 上